

日本の20世紀遺産20選の選定について

1 概要

本市の「西条の酒造施設群」が、日本イコモス国内委員会から12月8日に発表のあった「日本の20世紀遺産20選」の一つに選出された。

これは、ユネスコ世界文化遺産の諮問機関であるイコモス（ICOMOS/国際記念物遺跡会議）国内委員会から、「20世紀に継続発展した伝統産業景観の代表」との評価を受けたものである。

また、日本イコモス国内委員会からの連絡を受けて、東広島市役所において東広島市長と西条酒造協会の前垣理事長による報道発表を行った。

2 日本の20世紀遺産20選について

ユネスコ世界文化遺産の諮問機関であるイコモス（ICOMOS/国際記念物遺跡会議）が設置した国際学術会議の中に、20世紀国際学術委員会（ISC20c）がある。

これまで世界遺産に登録された20世紀遺産は、著名な建築家による建築作品に偏っているという状況を受け、20世紀遺産の多様性についての議論の必要性が指摘されてきた。

そのため、20世紀遺産国際学術委員会に常時出席する30カ国に対して、各国の20世紀遺産をその写真とともに20件提出するように求めた。

これを受け、日本イコモス国内委員会の20世紀国内学術委員会に設置された「日本の20世紀遺産20選ワーキンググループ」において議論され、日本イコモス国内委員会理事会において選定が承認されたものが今回の「日本の20世紀遺産20選」となっている。

そのほかの選出されたものとしては、東海道新幹線、瀬戸大橋、上野恩賜公園と文化施設群などがある。

3 報道発表

- | | | | |
|-------------------------|---|--|--------|
| (1) 日 | 時 | 平成29年12月8日（金） | 13:00～ |
| (2) 場 | 所 | 東広島市役所本館3階303会議室 | |
| (3) 出席者 | | 藏田 義雄 東広島市長
前垣 壽男 西条酒造協会理事長 | |
| (4) 主催 | | 東広島市教育委員会 | |
| (5) 日本の20世紀遺産
選定問合せ先 | | 後藤 治（日本イコモス国内委員会20世紀遺産20選選定WG主査）
工学院大学
山名善之（日本イコモス国内委員会20世紀国内学術委員会委員長）
東京理科大学
矢野和之（日本イコモス国内委員会事務局長／文化財保存計画協会）
日本イコモス事務局 | |

日本の20世紀遺産20選 選定の経緯

【背景】イコモス（20世紀国際学術委員会）

20世紀遺産は、近代建築運動の建築作品の文化的遺産としての価値が広く認められるようになり、著名な建築家による建築作品が世界文化遺産に登録されてきた。



国立西洋美術館（東京：ル・コルビュジエ）

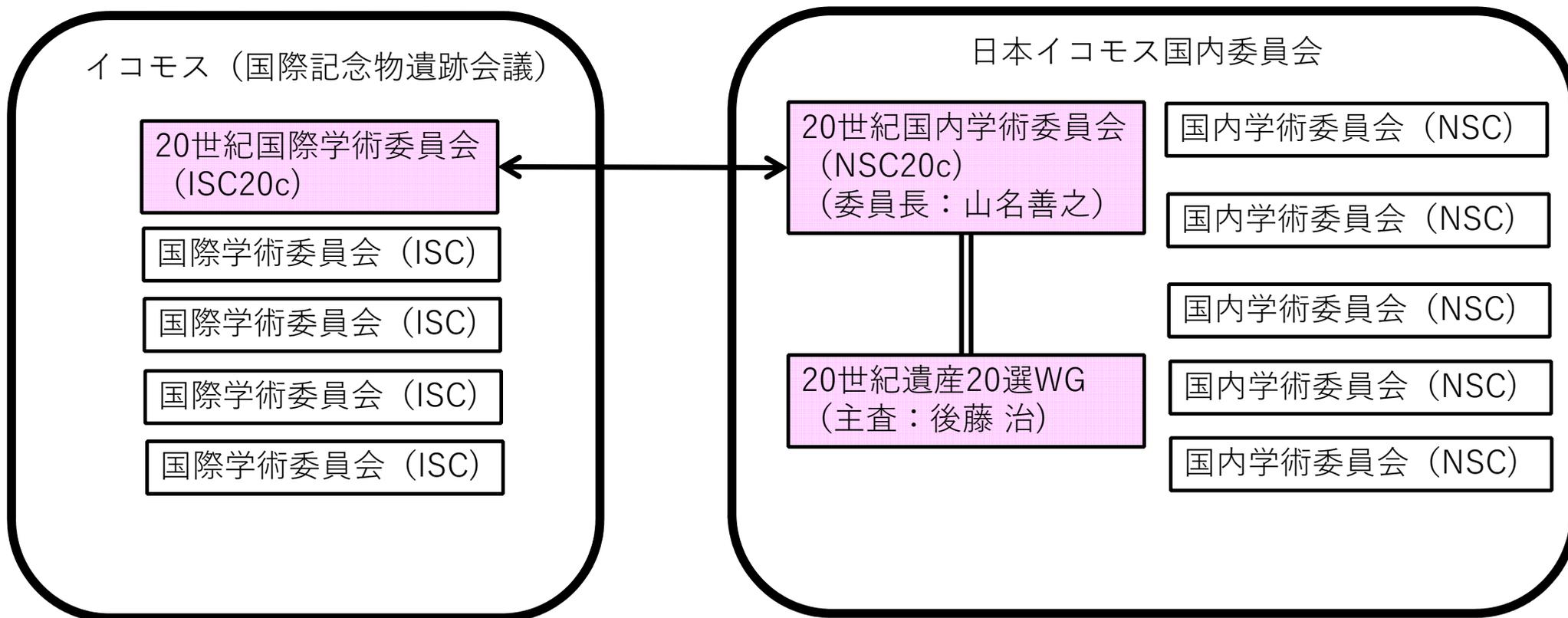


オペラハウス（シドニー：ヨーン・ウッツォン）

一方で、世界文化遺産に登録された20世紀遺産が著名な建築家による建築作品に偏っている状況を受け、20世紀遺産の多様性についての議論の必要性が2010年頃から指摘されはじめた。

イコモスの20世紀国際学術委員会（ISC20c）は、常時参加している30カ国に対し、20世紀遺産の多様性を議論するための資料として各国の20世紀遺産を20件選定して提出するよう求めた。

日本イコモスではこの課題に2013年から取り組みを開始し、WGの中で議論を重ね、このたび日本イコモス国内委員会理事会で日本が提出する20件の選定が了承された。



日本の20世紀遺産20選

20選選定WGメンバー

後藤 治（工学院大学）

山名善之（東京理科大学）

矢野和之（文化財保存計画協会）

鱒坂 徹（鹿児島大学）

伊東 孝（産業考古学会）

北河大次郎（東京文化財研究所）

田所辰之助（日本大学）

田原幸夫（京都工芸繊維大学）

松隈 洋（京都工芸繊維大学）

渡邊研司（東海大学）

選定の視点 / 代表性 + 保存状況

1) 20世紀に新たに登場したものの

2) 19世紀までにあり、20世紀に進化・展開したものの

3) 歴史上の事件を象徴するもの

4) 伝統と20世紀遺産の対比・融合

+

5) 「日本」という地域性を表しているもの

※5)については、1)～4)との複合的な視点

※選定の視点の対象外としたもの

著名な建築家の作品

2)19世紀までにあり、20世紀に進化・展開したものの
在来系／伝統の近代化　／産業関連、技術関連

酒造業：西条

窯業：有田

木造宿泊施設：箱根町／伝統構法の近代化

外来系／導入された海外技術の日本的展開

鉄道関連：肥薩線

洋風建築：迎賓館(赤坂離宮)

インフラ：立山砂防

畜産業：小岩井農場

⑱西条の酒造施設群

〔20世紀に継続発展した伝統産業景観の代表〕

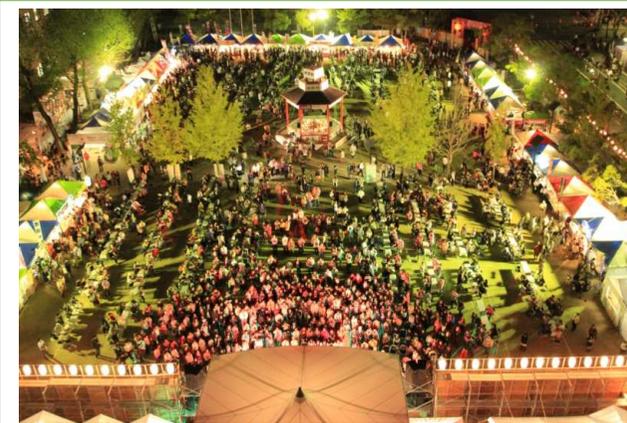
20世紀遺産・20選
ICOMOS ISC20c
Japan



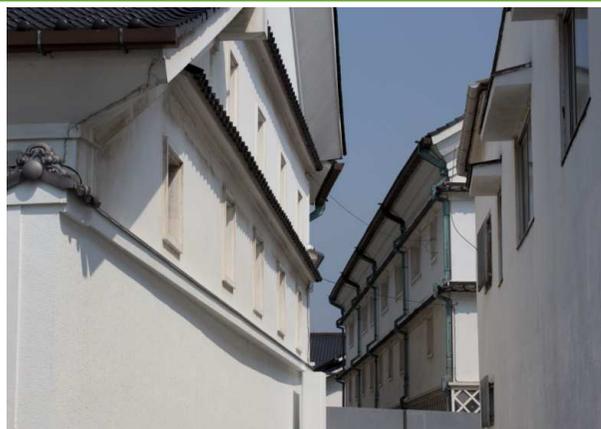
赤煉瓦煙突・白壁・なまこ壁



冬の朝、酒米を蒸す蒸気が朝焼けに染まる



10月、酒祭りで良い酒の仕込みを願う



まちなか酒蔵集積地「西条酒蔵通り」



西条酒蔵通り近く、安芸国分寺歴史公園にある
市重要文化財 國分寺仁王門



赤煙突が林立する雪の西条酒蔵通り

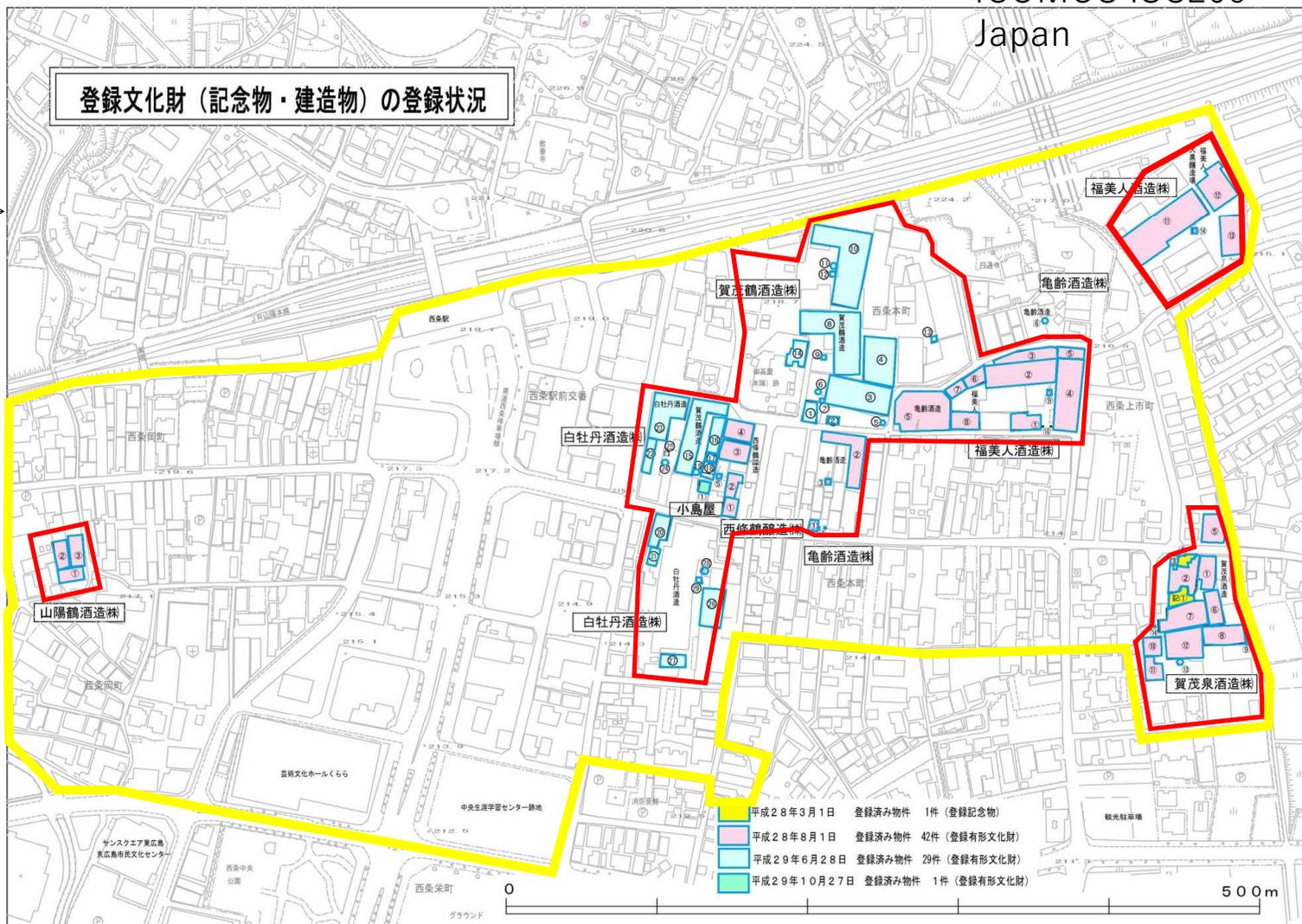
⑱ 西条の酒造施設群

20世紀遺産・20選
ICOMOS ISC20c

西条の酒造施設群	(v) (iii) 西条酒蔵通り	Japan 〔20世紀に継続発展した伝統産業景観の代表〕																
所在地	〒739-0006・0011・0016 広島県東広島市西条上市町,西条本町,西条岡町																	
位置（近隣の市役所の位置）	北緯34度25分37秒 東経132度25分37秒 標高214.26メートル																	
主な構成資産	西条酒蔵通り、 ・酒蔵、土蔵、店舗、事務所、主屋 ・煙突、門柱、井戸																	
概要等	古くは、安芸国分寺がおかれた安芸国最大の穀倉地帯、東広島市。その中心地西条には、江戸時代から明治時代にかけて、西国街道の宿場町「四日市宿」として、酒の醸造販売が創業された。海上輸送が主流だった物流が鉄道輸送に移行する中、明治27年、山陽鉄道（現在のJR山陽本線）の三原駅－広島駅間の開通により、西条酒蔵通りの酒造業が急速に拡大。特に、明治40年からの全国清酒品評会で広島酒は上位を席卷、この銘酒づくりに最大の功績を残した技術（東広島市出身の三浦仙三郎氏が開発した軟水醸造法と、佐竹利市氏の開発した縦型精米機の精米技術）は、東広島が吟醸酒発祥の地としての由縁である。「酒造業」において、技術立国日本の祖となる伝統産業を支えてきた杜氏と技術者の存在は、東広島市西条を、兵庫の灘、京都の伏見とともに日本3大銘醸地として全国に名を馳せさせた。その魂が今も変わらず受け継がれる西条酒蔵通りには、赤レンガの煙突が林立し、白壁の酒蔵が集積する、「まちなか酒蔵集積地」の施設群がある。																	
主な施設	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主な施設名称</th> <th>建築年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>賀茂鶴酒造一号蔵北土蔵</td> <td>明治5年</td> </tr> <tr> <td>福美人酒造一号蔵</td> <td>大正6年</td> </tr> <tr> <td>白牡丹酒造延宝蔵南端棟</td> <td>延宝3年</td> </tr> <tr> <td>西條鶴醸造酒宝蔵醸造蔵</td> <td>明治37年</td> </tr> <tr> <td>亀齡酒造一号蔵</td> <td>明治末期～大正</td> </tr> <tr> <td>賀茂泉酒造通路棟</td> <td>大正元年</td> </tr> <tr> <td>山陽鶴酒造黒松一号蔵</td> <td>大正元年</td> </tr> </tbody> </table>		主な施設名称	建築年	賀茂鶴酒造一号蔵北土蔵	明治5年	福美人酒造一号蔵	大正6年	白牡丹酒造延宝蔵南端棟	延宝3年	西條鶴醸造酒宝蔵醸造蔵	明治37年	亀齡酒造一号蔵	明治末期～大正	賀茂泉酒造通路棟	大正元年	山陽鶴酒造黒松一号蔵	大正元年
主な施設名称	建築年																	
賀茂鶴酒造一号蔵北土蔵	明治5年																	
福美人酒造一号蔵	大正6年																	
白牡丹酒造延宝蔵南端棟	延宝3年																	
西條鶴醸造酒宝蔵醸造蔵	明治37年																	
亀齡酒造一号蔵	明治末期～大正																	
賀茂泉酒造通路棟	大正元年																	
山陽鶴酒造黒松一号蔵	大正元年																	
備考（登録文化財）	2016年～2017年、『国 登録有形文化財（建造物）』として72件を登録																	

⑮ 西条の酒造施設群

20世紀遺産・20選
ICOMOS ISC20c
Japan



- コアゾーン
- バッファゾーン
- 主要施設